

広域廃棄物中間処理施設建設予定地
生活環境影響調査業務（暖房期）

仕様書

令和 7 年 12 月

網走市廃棄物処理広域化推進室

生活環境影響調査（令和7年度 冬季調査）

1. 計画準備

現地調査の実施にあたり、調査実施計画書を作成する。

2. 調査結果の整理

現況把握のために次の調査を実施し、調査結果の整理を行う。なお、生活環境影響調査項目の選定により、項目の追加または削除が発生した場合は、協議のうえ設計変更の対象とする。

(1) 大気汚染調査

ア. 環境大気質

近傍の大気質測定局の測定結果を収集整理する。また、不足項目の補完及び大気質測定局データとの整合性を検証するために、以下の現地調査を行う。

- ①調査項目：二酸化窒素(NO₂)、二酸化硫黄(SO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)、塩化水素(HCL)、ダイオキシン類(DXN)、水銀(Hg)
- ②調査地点：計画地周辺又は最大着地濃度が想定される2地点とし、そのうち1地点は美幌高校とする。
- ③調査時期：暖房期の1回 7日間連続／回

イ. 地上気象

近傍の気象観測所（測定項目：風向、風速、気温、湿度、日射量）の観測結果を収集整理する。また、不足項目の補完及び気象観測所データとの整合性を検証するために、以下の現地調査を行う。

- ①調査項目：風向、風速、気温、湿度、日射量、放射収支量
- ②調査地点：計画地周辺の1地点
- ③調査時期：暖房期の1回 7日間連続／回

3. 報告書作成

調査結果をとりまとめ報告書を作成する。提出する成果品は以下のとおり。

成果品（A4紙ファイル綴じ）	1部
電子成果	1部

4. 打合せ協議

業務内容に係る打合せとして、着手時、完了時の計2回を実施する。

■生活環境影響調査項目

施設排水は下水道放流を予定していることから、調査予測項目に含めない。

表 2-1 生活環境影響要因と生活環境影響調査項目

調査事項		生活環境影響要因	煙突排ガスの排出	施設排水の排出	施設の稼働	施設からの悪臭の漏洩	廃棄物運搬車両の走行
		生活環境影響調査項目					
大気環境	大気質	二酸化硫黄 (SO ₂)	○				
		二酸化窒素 (NO ₂)	○				○
		浮遊粒子状物質 (SPM)	○				○
		塩化水素 (HCl)	○				
		ダイオキシン類	○				
		その他必要な項目 注)	○				
	騒音	騒音レベル			○		○
	振動	振動レベル			○		○
	悪臭	特定悪臭物質濃度 または臭気指数 (臭気濃度)	○			○	
水環境	水質	生物化学的酸素要求量(BOD) または化学的酸素要求量(COD)		○			
		浮遊物質 (SS)		○			
		ダイオキシン類		○			
		その他必要な項目 注)		○			

注) その他必要な項目とは、処理される廃棄物の種類、性状及び立地特性等を考慮して、影響が予測される項目である。

たとえば、大気質については、煙突排ガスによる重金属類などがあげられ、また、水質については全窒素 (T-N)、全リン (T-P) (T-N、T-Pを含む排水を、それらの排水基準が適用される水域に放流する場合) などがあげられる。

- ・ 大気質については、煙突排ガスによる影響及び廃棄物運搬車両による影響があげられる。廃棄物運搬車両については、交通量が相当程度変化する主要搬入道路沿道に人家等が存在する場合に調査の対象とする。
- ・ 騒音及び振動については、施設の稼働による影響及び廃棄物運搬車両による影響があげられる。施設の稼働については、騒音及び振動が相当程度変化する地域に人家等が存在する場合に対象とする。廃棄物運搬車両については、交通量が相当程度変化する主要搬入道路沿道に人家等が存在する場合に対象とする。
- ・ 悪臭については、煙突排ガスによる影響及び施設からの漏洩による影響があげられる。煙突排ガスについては、大気汚染と同様な考え方により、調査の対象とするか否かの判定を行う。施設からの漏洩については、影響が想定される周辺地域に人家等が存在する場合に対象とする。
- ・ 水質については、施設排水による影響があげられる。施設排水を下水道へ放流するなど、公共用水域への排出を行わない場合、または、ほとんど排水しない場合には除くことができる。
- ・ 施設の構造または処理される廃棄物の種類及び性状により影響の発生が想定されない場合等については、調査を行うことを要しないが、その場合は、調査を行わなかった生活環境影響調査項目及び調査を行う必要がないと判断した理由を記載する。